

「試してみる」を選択する



長谷陽子

(株)豊田中央研究所
[480-1192] 長久手市横道41-1
研究員, 博士(工学).
専門はキラル高分子, 電気化学.
y-hase@mosk.tytlabs.co.jp
www.tytlabs.co.jp/

家族全員が本屋に行くのが好きで、週末になると必ずと言っていいほど訪れます。わが家はテレビをほとんど視聴せず新聞も購読していないので、インターネット上の情報を除けば世の中で話題になっていることや流行を知る機会がほぼありません。そのため所狭しと平積みされている本・雑誌は話題・流行を知る情報源となっており、そんなこともあって本屋通いはなかなか楽しいのです。近頃は「ビジネス書」と呼ばれるジャンルの本が置かれていることが増えている気がしますが、先日、その中からふと目にとまって取り上げたのは、「仕事は楽しいかね？」(デイル・ドーテン著、野津智子訳、きこ書房)という1冊の本でした。ばらばらとページをめくって目に入った「試してみることに失敗はない」という一節が気になって、結局買ってしまいました。原著の初版は1996年と新しい本ではないのですが、読んでみるとかわいいおじさんのイラストが載った表紙と読みやすい会話形式の文章とは裏腹に、けっこうなウンチクに富んだ内容の本です。「試してみることに失敗はない」とは、何かを試行した時そのほとんどは失敗するかもしれないけれど、まずは試してみないことには発見に出会う確率は上がらない。すなわち試してみることにそのものに失敗はない、という意味のようです。

さて、社会人生活を約40年とすると現時点の私はだいたい折り返し地点に在ることになります。これまでの経歴はというと、最初の就職先は数年の勤務の後退職させていただいて博士課程に入学、修了後に現在の勤務先に入社して今に至ります。博士課程入学に関しては家族と受け入れ先の理解を得ることが必要だったために、実際に入学する随分前からいろいろな方々にご相談させていただいてのことでした。とはいえ、勤務していた会社を退職、入学試験は妊娠中の丸いお腹での受験、進学は第一子の子育てとの同時進行が前提、と多少無茶な計画でしたので、それでも「全く問題はありません」と受け入れてくださった八島栄次先生に対しては改めて感謝の気持ちしかありません。初めての子育てをしながらの博士課程はやはり何かと大変でしたが、温かいご指導と周囲の理解の下でどうか日々過ごしていたと思います。

その後は幸運なことに希望していた研究職に就き、第二子、第三子にも恵まれました。そして今は、うっかり飛び込んでしまった仕事と私事が混在する毎日の密度の高さを実感しています。確かに子育てをしていると仕事に費やすことのできる時間を確保するのが難しいのですが、研究に携わってきた期間のほとんどを子育てと並行してきた私には研究の成果がなかなかまとまらないのは時間がないためか、自分の能力不足のためかを比較することができません(いや間違いなく後者です)。それでも、刻々と変化する状況にあたふた対応し、料理を作りながら論文の構成を考え、子ども達を迎えに行く時間から逆算して実験を組み、終業後に運転しながら今日の晩酌のお供は何にしようかと思いをめぐらせる、そんな日々を駆け抜けるように過ごしています。一日24時間の間に三人の子ども達のおもしろおかしい会話から分子の動きに至るまでさまざまなスケールの思考を行き来する、仕事と私事が分離できないほど混じりあった時間は奇妙で贅沢です。そして、気づくと社会人生活のスタート時点では想像もしていなかったこのような日常を経験していることには本当に驚かされます。

研究も母親業も自信をもって始めたわけではないし、不器用な私に仕事と私事のバランスがうまくとれたことなど今までありましたっけ? という感じ。私事に偏り諸先輩方のようにうまく両立できないときには自分は本当に研究に向いていない、と落ち込む一方で、子どもの急な発熱時に仕事の予定変更を余儀なくされる際にはそれを不自由と思うこともあります。いつも何かに対して自信がなく「もっと〇〇になりたい」というのが口癖で、夫には「また言ってる、今度は何?」と笑われています。そんな私ではありますが、それでももし今、仕事と私事の両立に悩み飛び込むことに不安を感じている方々に対して私から伝えることができる言葉があるとしたら、思い切ってやってみると思ってもよらない体験ができることは間違いなく、それは苦労も喜びもすべてひっくり返して価値があるもので「試してみることに失敗はない」ですよ、かな、と思っています。